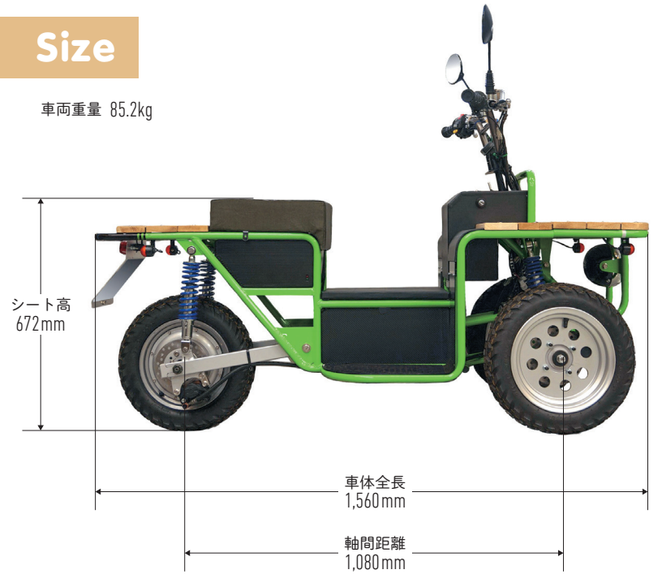
Size

車両重量 85.2kg



History

2014	12	特別研究テーマとして申請（学内）
2015	3	基本構想発表（えちご・ECO 技術同友会） 全体レイアウト・図面製作開始 技術アドバイザーとの打ち合わせ 部品製作企業との打ち合わせ
	7	図面発行 部品製作手配
	10	部品納入 組み立て開始 市民オープンキャンパス展示
	11	実働のための組み立て 石破茂元地方創生担当大臣　来学時に展示
2016	1	組み立て完了 第一回走行テスト
	3	「北陸地域の活性化」に関する研究助成事業 報告会（新潟市）にて報告 長岡造形大学紀要　第 14 号寄稿
2016	4	産学連携知的財産アドバイザー派遣事業（INPIT）に採択
	6	山間地・畑（私有地）にて走行テスト
	7	「デザインへのみちすじ」展出品（新潟市）
	9	新潟産学官連携フォーラム　学内展示 走行テスト・改修など随時進行
2017	2	２号機製作のための企業訪問 １号機のテスト・調査結果をもとに ２号機の基本構想着手、図面制作
	7	えだまめフェスタ2017（長岡市）出展･アンケート調査
	9	２号機図面による手配
2018	2	試作部品納入・組み立て開始
	6	NaDeC BASE にて公開組み立て作業（～７）
	7	えだまめフェスタ 2018 出展・アンケート調査
	9	法規対応状況･実車確認、走行テスト･セッティング確認
	11	原動機付自転車標識交付（長岡市）
	12	公道走行テスト開始（長岡市内）

Designer's comment

地域の人が集まり交流し、つながりを持つことが地域の活性化にとって欠かせないことです。そのためには移動手段が必要となります。移動手段を地域で製作することができれば、産業の活性化にもつながります。そんな思いを込めてこのモビリティを提案しました。

プロダクトデザイン学科 教授　齋藤 和彦

Check!
地産地消モビリティの
動画が見られます

公立大学法人
長岡造形大学
Nagaoka Institute of Design

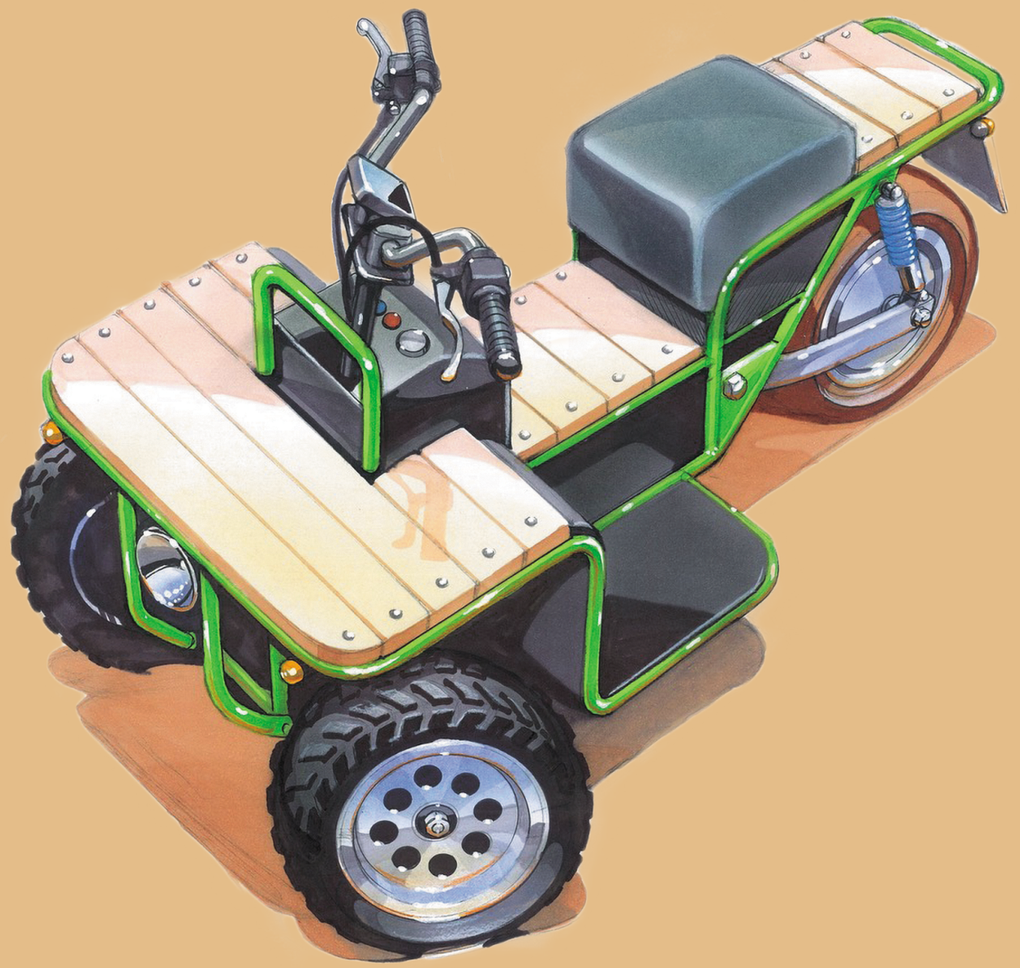
長岡造形大学 地域協創センター
940-2088 新潟県長岡市千秋 4 丁目 197 番地
Tel. 0258-21-3321　Fax. 0258-21-3343
E-mail chiiki@nagaoka-id.ac.jp　https://www.nagaoka-id.ac.jp/

地産地消

Mobility

モビリティ

Local production
for local consumption



地域で創り、地域で乗る、
地域のための電動モビリティ

1 自由にカスタマイズできる荷台は「ウッドデッキ」をイメージ

2 原付スクーターと同じ操作系

地産地消
モビリティ
の特徴

6 バック(後進)が可能。
田畑の細い道にも入りやすい

3 前輪を二輪・後輪を一輪の構成とした三輪車で、雪道でも乗れる安定感

4 跨ぎやすい低床フレーム。取り外して自宅で充電できるバッテリー内臓

5 後輪内にモーターを内蔵したインホイールモーター

地域で生産されたものを、
地域で消費する「地産地消」。

金属加工や鉄工業など、
新潟県・長岡市の産業の強みを
生かし、その土地の
風土・暮らし・景色に
溶け込むモビリティを
創りました。